



# 奈良県感染症情報

令和3年第13週(3月29日～4月4日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- ～「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症」について～

### ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.59	(2.50)	➔	↗	➔	↗↗
2	咽頭結膜熱	0.68	(0.35)	↑	↑	↑	↗
3	A群溶連菌咽頭炎	0.47	(0.50)	➔	➔	➔	↗
4	突発性発しん	0.38	(0.44)	➔	➔	↘	↓
5	RSウイルス感染症	0.18	(0.00)	↗↗	↓	↗↗	➔

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↗↗**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**➔**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

### ◆ 県内概況 ◆

定点把握感染症について、中和保健所管内において、発熱・咽頭炎・結膜炎の3主症状とする咽頭結膜熱の報告が増加しています。タオルは個別にし、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

新型コロナウイルス感染症について、全国的に3月以降、再び感染者が増加しており、1日、大阪府、兵庫県及び宮城県への「まん延防止等重点措置」の適用が決定されました。本県でも、3月下旬以降感染者が高い水準で推移しており、第13週の新規感染者は292名で、前週より2倍に増加しています。今回の「まん延防止等重点措置」の適用は、本県に隣接する大阪府等における感染拡大によるものであることから、県民の皆様には、感染予防のための「3つの徹底」とともに、改めて以下のことをお願いいたします。

- ・まん延防止等重点措置が適用されている地域への不要不急の往来を控えましょう
- ・通勤や通学等で大阪(特に大阪市)へ往来する際、感染リスクが高い場所への出入りを控えましょう
- ・家庭内でも「うつらない・うつさない」よう十分に用心しましょう

### ～「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症」について～

2020年50週に届出があった「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症」について、病原体サーベイランスに基づき遺伝子解析を実施した結果、**奈良県内で初めて、OXA-48型のカルバペネマーゼ産生菌(CPE)であることが判明しました。**ちなみに、2018年の全国におけるCRE病原体サーベイランス報告(1684株)において、OXA-48型は3株でした。

耐性菌の増加・拡大および抗生物質の開発鈍化の現状において、感染症治療の最終兵器とも呼称されるカルバペネム系抗生物質に耐性を示すCREは「悪夢の耐性菌」と呼ばれ、国際的に最も恐れられている重要な薬剤耐性菌であり、監視が実施されています。中でも、薬剤を分解するカルバペネマーゼ酵素を産生するCPEは、耐性遺伝子をプラスミド上に保持し、接合により、同一菌種や他菌種へ次々と耐性情報を伝達し、耐性菌の拡散が早い特徴を有します。カルバペネマーゼ遺伝子には地域性があり、本邦ではIMP型が多く検出されます。**海外型に分類されるKPC型、NDM型、OXA-48型の検出は少なく、検出された患者さんは、海外渡航歴の有る場合がほとんどです。**OXA-48型は、2001年にトルコで初めて確認され、2009年以降、欧州各国で広がり、感染症になった場合の高い死亡率を懸念してCDCが2013年に警告声明を公表しています。本邦では2012年に医療ツーリズムを原因とする事例で初めて確認されました。**近年、海外渡航歴の無い患者さんからも検出報告が出始め、国内での拡散が懸念されています。奈良県の事例においても海外渡航歴無しと報告されており、今後、県内での広がりを監視する必要があります。**



❖ 注目疾患の動向 ❖ 全て定点当たり報告数

■ R3    ▲ R2    □ R1    〰 過去10年平均

